

ぐるっけ

平成六年七月二十七日第三種郵便物認可
平成十六年一月一日発行（毎月一回一日発行）
第十卷第九号（通巻第一一七号）

鈴



ぐるっけ

新春号

俳句雑誌

第117号

GLOCKE

1. 2004

謹賀新年

燧ケ灘

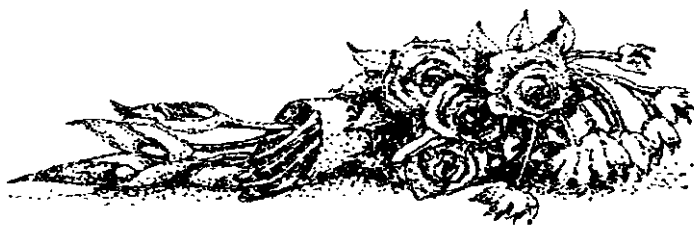
品川鈴子

帰郷せむ独楽大将の勲祝ひ

出世風燧ケ灘の風まかせ

埒外へも鈴振り撒けり初神楽

ストールのずれるめりはり初太鼓



疊替へするに書物の堆うづたかし

花柵親と異なる間尺もち

おのころの山浅眠り日矢まとも

藁塚の乳首そここおのころ島

怪獣の爪なるクレーン蓮根掘り

牡蠣筏石油タンクが見張りせる



玉鈴

和歌山 田中 嘉代子

祭法被着しまま母の背に眠る
子供神輿お旅所に入り畏まる
鯛雲すっぱり石油基地の上
老も子も豌豆畑に支柱立て
藁塚にに火を付け稲むらの火祭は

兵庫 田中敏文

捨舟を隅に追いやる布袋草
山車を曳く子の着る法被地をすりて
神輿の房大揺れ小揺れ立ち上る
パレードのすみしむなしさ秋の雨
芋車トロットダンスの聞えくる

大阪 谷 泰子

龍頭りよつと鷓首とうけきすそろひ月の出待つばかり
奈良町の身代り猿に秋思ふと
秋うらら車庫の扉も奈良格子
寺跡に湯屋の煙突奈良の秋
塔址への抜け径ふさぐ酔芙蓉

吟

愛媛 筒井圭子朗

金星も月も映して水澄めり
蔵行燈点し山莊月を待つ
霧が入り浸るゴンドラの待合室
ワイヤロープ鞆し狩獵の罟つくる
新米に減農薬のシール貼る

兵庫 内藤三男

菜虫取る隣も職を退きし人
蝻はたはたの自動車道をわたり来し
葡萄挽ぐ秀吉の陣ありし丘
蟲しぐれ分けて終電車庫に入る
見上げたるビル動きだす秋の空

大阪 中島 霞

乳呑子とあくんおくんと秋の昼
枯れ兆す蓮に風無き一日かな
澄む水に恋を占ふ白紙乗す
夜の秋の滴・滴落つる水の音
殿しんがりのすこし後れて鳥渡る

大阪 中田征二

先生へをなもみ投げし事ありき
目玉焼みたいな月と孫の云ふ
三枚に降す術なし 鱗雲
白緑の巨腹^は持て余す穴惑ひ
寂庵へ喧しきや 鴟の声

大阪 中田寿子

倒木や 茸育てる力まだ
二枚しか無きマンションの障子貼る
野仏に程良き供花 曼珠沙華
葛城の行者も召すや 茸汁
城壁の斜面を登る 蔦紅葉

愛媛 永野秀峰

クレーンに乗りて傘松手入れさる
吊し柿老婆背伸びし つまみゐる
農繁期番犬だけが家にゐる
赤い羽根つけし庭師が松見あぐ
土葬墓地 曼珠沙華咲く一面に

高知 西村椿子

南海地震来る疑はず 寅彦忌
振り返る 八十余年後の月
先逝きし友を指おる後の月
竿虫の色 鮮明に寒気たつ
晩酌は焼酎湯割り三つときめ

兵庫 長谷川 鮎

初笑稚もつられて声上げる
初セール赤子とミルク預けられ
ことごととジェットコースター初空へ
クレーンへ身振りで指図冬ドック
山眠り遺せしことば「ありがとう」

東京 長谷川登美

敬老日見る聞く 嚙むのみな出来ぬ
月下美人家中起きて 薫り浴ぶ
ハイビスカス一輪となり 紅深し
ハイビスカス島の乙女は 岩風呂に
日本海側にも来たたる 風炎^{フエイン}なり

薬草歳時記

(一一六) ユズリハ(楨)

須賀悦子

餅のこな楨につき目出度けれ

高浜 虚子

楨は弓弦葉、交讓木、讓葉木とも書き、親子草ともいいます。日本の古歌にも詠まれ、新撰六帖の為家の歌には、「春ごとに色もかはらぬゆづる葉の」

又、枕草子四十の一節にも

「ゆづる葉のいみじうふさやかにつやめき茎はいとあかきらきらしく見えたるこそあやしけれどをかし」などとありますが、楨は「延喜式」「義経記」に書かれている古くからの常緑樹です。その年の新葉が出そろってから旧葉がすべて落ちるので、「子が成長してから親は子に代を譲る」にたとえて昔から新年のしめ飾りに燈を添えて、「代々譲る」と縁起物にしておりました。

雌雄異株で、花は五、六月頃に咲き、緑黄色のめだたない総状花序です。核果は十、十一月頃株の節に長さ約一センチの黒紫色楕円形の実が多数葡萄状に熟します。樹高は

四〜十メートルにもなりますが、繁殖は実生、挿し木によります。秋に播種、二年目に定植しますが、ほとんど手入れが不要で丈夫な高木です。寒地の冬期には霜除けが必要といわれています。

薬用部分の樹皮、葉(交讓木)は、七、八月頃に採集し、水洗い後、通風のよい所で日干しにして、民間では腫物にこれを刻んだものの煎液で患部を洗う。又、駆虫、去痰作用があり、受粉粉末にしたものは喘息にもよいといわれています。成分のダフマクリンには呼吸運動衰弱、心臓麻痺作用もあることが知られていますので、安易な服用は避けるべきです。

庭園樹として新年の飾り用にも代々受け継がれ、目出度い樹ではありますが、近年の高齡化社会には、親から子に譲ることのけじめも失われつゝあるように思われます。

この楨の挿絵のために雌株雄株が揃っています兵庫県加西市にあるフラワースタールへ、六月には花を十一月には実を観察に行きましたが、帰りに立ち寄った北条右仏の五百羅漢の表情にそれぐゝの人生が語り継がれているようで感慨深いものがありました。

参考文献 「王朝の植物」近藤浩文著 保育社

「原色牧野和漢薬草大図鑑」北隆館

著者略歴 神戸薬科大学卒

ユズリハ〔ユズリハ属〕(ゆずりは科) (譲葉)

Daphniphyllum macropodum Miq.

薬用部分：樹皮、葉

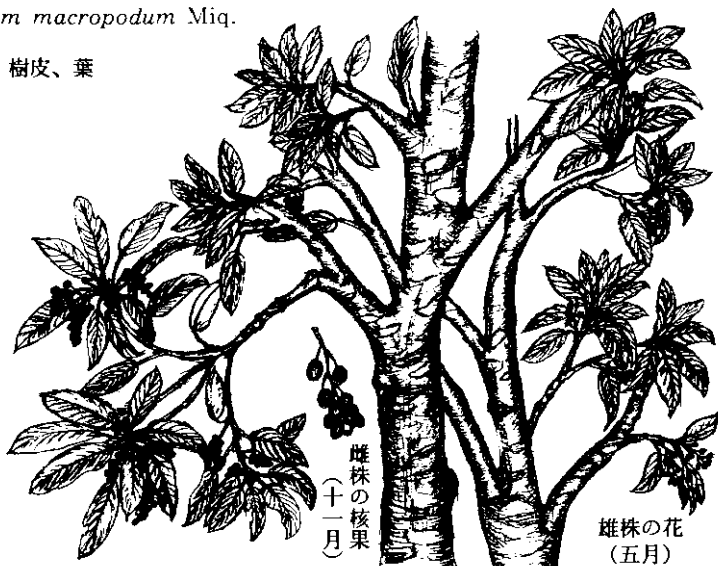


雌花



雄花

須賀
悦子
画



雄株の花
(五月)

エ. 2

楪を流るる日ざし高野口	楪に日和の山を重ねけり	ゆづり葉や古歌の終りは妹を恋ひ	雪山の照り楪も燈も	楪やひそかに継ぎし詩の系譜	楪やまぶしさまさる沖の雲	楪の青くて齒朶のからびたる	楪や厭ふべきものはひた厭へ	ゆずり葉に粥三椀や山の春	ゆづり葉や口に含みて筆始
友岡子郷	大峯あきら	鍵和田柚子	森澄雄	能村登四郎	木村蕪城	池内たけし	石田波郷	飯田蛇笏	榎本其角

鈴の奏

品川鈴子選

古墳めぐる飛鳥みやげのあのこづち 愛知 市川十二代

紅葉狩一と日を母の杖となり

土瓶蒸し三三九度のやうに飲む

北斎の天井絵見る膝の冷

うそ寒の天へ階段京都駅 兵庫 津田 霧笛

墓洗い酒も飲ませて子供養

頼まれて恋文訳す夕月夜

見破らる手品の種や長き夜

失職の理由問へぬまゝ温め酒 大阪 石橋 萬里

霧込めの山上駅をひとり守る

誰彼に鯛ひらひら釣我慢

黒鯛ちぬの腹海辺で捌く釣天狗

先着の鹿と東司に雨宿り 大阪 木野 裕美

一湾の縮緬皺に秋日燦

晩照に黄金のうねり芒原

風止りコスモスに透く石佛

若がえる体操しすぎこぼれ萩 兵庫 池田 久恵

自然薯や粘土ねんどの新聞紙

秋晴に目ざす建物レンガ色

あいまいなスペル綴りて秋深し

霧ごめの淡路はいづこ遠汽笛 大阪 野口喜久子

捨舟の伏せある浜の猫じやらし

三の谷へ爪先あがり鱗雲

平成の案山子にて候二本足

リハビリ後濯ぎ終へにし冬の月 兵庫 片山八重子

管二本つけられしまゝ冬の朝

秘書一人ほしくなりたる冬の朝

密室に雪女郎出づベル不通

中二階格子窓より栗の枝 兵庫 浜本 広子

敬老日孫手づくりの首飾り

吹割の滝シヨロシヨロと秋の風

Vの字に雁飛ぶ空に霧の雨

水に浮くひょうたん回す通るたび 香川 大空 純子

妹の電話で秋思母のこと

秀 鈴 記

巻頭 三句 品川鈴子 評

四句〜十五句 池田かよ //

* 選句は全て 品川鈴子

土瓶蒸し三三九度のやうに飲む 市川十二代

松茸の土瓶蒸しは、献立のうちでも上品なもの。料理人の丹精こめたご馳走を賞味するには、ゆっくりと一口ずつ心を尽くして飲み、最後の一滴まで味わう。その動作はかつて挙式でした三三九度さながら。三三九献とも言うが出陣、帰陣、祝言など厳かな献杯の礼で、三つ組の杯で三度

ずつ三回酒杯を献酬する。

うそ寒の天へ階段京都駅 津田 霧笛

京都の顔ともいふべき駅ビルは、旧駅とはがらりと違う印象の建築デザインで、巨きな外階段などもあり、京都盆地の薄ら寒い天へと剥き出しの感じ。京都にふさわしいかどうかは、各人の感性まかせ。

失職の理由問へぬまゝ温め酒 石橋 萬里

不況の風にあおられて無職となり、ふと自分を訪ねてきた人に、まずは黙ってお酒を温めてあげるのが、せめてもの労わり方。働き盛りの後進に、理由など聞かずに力づけたい。

先着の鹿と東司に雨宿り 木野 裕美

禅寺でトイレの事を東司と言う。京都の東福寺の東司は重文でよく知られている。奈良公園のシンボルの鹿は観光客に親しまれており、興福寺の一部でもある公園には立派なトイレがある。鹿と雨宿りした旅のひとつま。やさしい人柄。トイレを品良く詠まれた。

あいまいなスペル綴りて秋深し 池田 久恵

“秋深き隣は何をする人ぞ”芭蕉の句が浮かぶ。秋も深まると物音も世間も静かになり、冬ごもりの用意をする。

灯下で書をひもとき物思いに耽ることが多いのも秋が深まつてから、あいまいなスペルとは反語かも。

平成の案山子にて候二本足

野口喜久子

稲の実る頃の田に思い思いのいでたちの案山子が立っている姿はユーモラスな田園風景です。案山子は一本足と疑いもしなかったのに、平成には二本足が現れたのです。案山子にて候の中七が芝居もどきで面白い句。

密室に雪女郎出づべし不通

片山八重子

雪女は日本独特の空想上の妖怪である。大雪の夜などに
出る雪の精で白い姿で徘徊する。雪女郎は雪娘より悪性な
どと語りつがれている。ふと何かの影が、出た！ 窓の防
犯ベルも鳴らなかつたのに。ぞくぞくと来る。

敬老日孫手づくりの首飾り

浜本 広子

目に入れても痛くないほど可愛いお孫さんから、首飾り

をプレゼントされた。ビーズかしら、ハワイ風のレイでしよ
うか。羨ましく、あやかりたいもの。"孫手づくり"か
けがえのない宝物。

水に浮くひょうたん回す通るたび

大空 純子

中身をどりのぞくため水に浸けてあるひょうたん。満遍
なく水にひたる様に世話をされる。根気の要る工程を経て
酒器などに。マニアの話では酒を食らわすと色艶が良くな
るとのこと、大切に磨かれて仕上がる。

同世代のジャズマン逝けり虫しぐれ

向江 醇子

戦中戦後を共に生きて来たジャズマンが亡くなった。戦
後のつらいとき、ジャズの力強いリズムやスイングに憧れ
たのも遠い昔に。時代の区切りを感じる。たましずめのよ
うに虫が鳴き競っている。(以下略)